

平成 25 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 千原 美重子

最終学歴	京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学	
取得学位	教育学修士	
所属学会	日本心理臨床学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本学生相談学会、関西心理学会、日本人間性心理学会、日本認知療法学会	
専門分野	臨床心理学、特にスクールカウンセリングなどの学校臨床や、発達に伴う危機を通じた行動発達のプロセスを重視する発達臨床に関する研究	
研究課題	スクールカウンセラーの発達支援に関する実証的研究～スクールカウンセリングのスタンダード構造とセルフアセスメントシートの作成の試み～	
授業科目	学部担当科目	・臨床心理学応用実習Ⅰ（前期）・臨床心理学応用実習Ⅱ（後期）・発達臨床心理学（前期）・コミュニティ心理学（後期）・教育心理学（後期）、臨床心理学演習Ⅰ（前期）・臨床心理学演習Ⅱ（後期）・臨床心理学演習Ⅲ（前期）・臨床心理学演習Ⅳ（後期）、心理アセスメント実習（前期）
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	・臨床心理学演習Ⅰ（三）（通年）・臨床心理学演習Ⅱ（三）（通年）・臨床心理学基礎実習（通年）・臨床心理学面接特論（前期）・臨床心理学特論（後期）・学校臨床心理学特論（後期）
	大学院博士後期課程担当科目	・ ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	人間論Ⅲ
【研究上の特記事項】	心理臨床学は、研究のみならず、アセスメント、面接、地域臨床支援活動をする必要があります。幅広い領域の専門家との連携を行うことで研究が進んできました。ドメスティックバイオレンスを現場で対応している専門家や、スクールカウンセラー、特別教育支援教員、臨床発達心理士、ボランティア活動に関わっている人など多方面の方々の協力を得ることで研究ができる分野である。今後とも学内外の方との連携を強め、現場の感覚を重視し、実証的な研究を進めたい。	
【教育上の特記事項】	地域支援活動や他機関との連携を行うことで、教育現場等の知識を得ることができ、学校臨床心理学特論や発達臨床心理学、コミュニティ心理学等の講義で生かされてきている。ボランティア活動の推進を図る地域連携教育研究センターの地域臨床研究会を開催し、学生や院生の地域支援活動を推進することで、教育に生かすことを念頭に置き活動をしている。教育に関しては、毎回レジュメを作成し、ディスカッションなどを通して、双方向性のある授業になるよう心がけている。またゼミではシャトルカードを利用、学生の学習の習熟度を考慮している。	
【社会的活動】	奈良県情報公開審査委員、奈良県青少年問題協議会委員、滋賀県スクールカウンセラー・スーパーバイザー、滋賀県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業委員、宮城県震災緊急支援スクールカウンセラー、栗東市障害程度区分認定審査会委員、大津市学校問題緊急サポートチーム委員会委員、滋賀医科大学事例調査検討委員会委員、滋賀県生徒指導緊急サポート事業に係る専門家チーム委員、滋賀の教師塾入塾生講演、宇陀市特別支援教育心理等専門家学校支援事業講師	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	奈良大学臨床心理クリニック所長、企画委員会委員、学生相談員、人権問題委員会委員、地域連携教育研究センター研究員事業1責任者、奈良大学保護者の集いにおける「発達臨床心理学から見た若い成人期以降の心理・社会的発達」についての講演、奈良大学臨床心理クリニック無料相談会ミニワークショップ「子育てと”わたし”を語ろう会」の実施	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ① ② ③ ④ ⑤				
(学術論文) ①子育て支援のサポート・グループの試み～ミニワークショップの企画・運営を通して～ ②学校教育相談活動が教育相談コーディネーターに及ぼす心理的影響 ③スクールカウンセラーの発達支援に関する実証的研究～スクールカウンセリングのスタンダード・プログラム作成の試み～ ④ ⑤	単著 単著 単著	平成26年3月 平成26年3月 平成26年3月	奈良大学臨床心理クリニック紀要6 奈良大学紀要42号 奈良大学総合研究所所報 22	子育てのサポートグループを通して、どのような支援プログラムが効果的なのかを検討した。他者理解や自己理解、自尊感情の向上を目指すプログラムが有効であることが示唆された。(印刷中) 153-164ページ 教育相談コーディネーターの教員はスクールカウンセラーの命綱であるといわれる。コーディネーターになることによってストレスは変化するか、他の分掌との連携はどうか、教育の見方が変わるのか、SCとの連携の強さによって他の教員との関係性がどのように変わっていくのかについて実証的に研究した。 41-48ページ スクールカウンセリング・セルフアセスメントシート(SCSAS)を作成し、8名のカウンセラーに実施した結果をプロフィールに描き、自己の活動の自己評価にできるかどうかを検討したものである。今後もSCSASの有効性についても検討していく必要がある。
(学会発表) ①スクールカウンセリング・アセスメントシートの作成	単著	平成25年11月	関西心理学会第125回大会(和歌山大学)	スクールカウンセリングに関する過去の研究から8つの因子を抽出し、それをレーダーチャートで図示することで、SC活動の構造が提示でき、SC自身が自己の活動の特徴を確認でき、今後の活動の幅を拡大するための示唆を得ることを示した。また学校の文化差も俯瞰できることを示唆するものである。

<p>(その他)</p> <p>①発達臨床の立場からの家族支援～多機関と連携した実践事例～</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<p>単著</p>	<p>平成26年3月</p>	<p>地域臨床実践研究第2号</p>	<p>21-28ページ 奈良大学地域連携教育研究事業1で行った公開シンポジウムにおいて筆者が今までの心理臨床活動の中で実践してきた家族支援について話題提供をしたうち、父親への子育て支援の実践事例、子育て読本「子育てのひきだし」の作成事例、若年層向けDV防止啓発DVDの作成・指導の手引作成の事例、スクールカウンセラーによる家族支援の事例について要約し、今後の家族支援についての方向性を論じたものである。</p>
---	-----------	----------------	--------------------	---